

浜坂病院 看護師・介護福祉士さん他、募集中!

浜坂病院は、昨年10月から多くの医療専門家と地域の代表者も加わる「公立浜坂病院のあり方検討委員会」を設置し、病院の円滑かつ健全な運営(経営)に向けて、既に3回の検討委員会を開催しました。

第3回検討委員会では、次に開催が予定され、最後となる第4回目の検討委員会(1月26日開催予定)で『看護師不足に対応し易くするため、併設された介護老人保健施設「ささゆり」の入所定員を80床から概ね40床に減じて、同施設所属看護師を病院に異動させることにより、病院機能を維持する』内容の答申をまとめる方向が承認されました。

この内容は看護師等の不足という現実問題に即していますが、我が町の短期・長期を含む入所施設定員は不足しており、「ささゆり」の縮小は雇用縮小、消費流出となり、更なる町勢の衰退に繋がるものだと思います。我が町にとって、「ささゆり」の相当期間の定員維持は重要であると考えています。

我が町の衰退は、浜坂病院自体の縮小を意味し、医療体制の維持を益々困難にします。



定員維持が望まれる「ささゆり」

現在、浜坂病院では看護師・介護福祉士などの医療・福祉関係職員さんを募集しており、我が町を救う仕事として、是非とも、お知り合い等をご紹介ください。

浜坂病院その他の情報

昨年末、浜坂病院の取組みと現状についての議員勉強会を企画していただき、石川医師による説明を受ました。

その際、浜坂病院は町民との相互理解を深めるため、町内の集落に出向いて、生活習慣病等の医療講座を開催するなどの取組みをしていることについてお聞きしました。

そして、驚いたのは昨年入院患者さんの内、急性期(病状が発症し、医療処置を要する時期)の患者さんの割合が70%に達しているということでした。

これは、浜坂病院の一般病床が十分に機能していることを意味しています。〈勉強会風景〉



むだばなし

我が家の愛犬「てん子」が家族になって15年目を迎えます。里親さがしの制度で、倉吉から貰い受けてきた雑種です。最初は玄関で寝起きしていましたが、今は家族と一緒に生活しています。歯ぐきが弱ってきたので、歯磨きをすることにしました。普段は大人しい本人(犬)も嫌がって、歯をむき出しにして抵抗するので、最初はスキータグをはめて歯磨きをしました。その内に慣れるだろうと思っていましたが、更に激しく抵抗するようになりました。その時、こちらが「てん子」を信頼できていないことに気がきました。それからは、「怒っても良いよ」の心構えで、素手で歯磨きに取り組むことにしました。それは効果てき面で、以降、激しく抵抗したり噛みつかれることもなく、ほぼ毎日、歯磨きをしています。



愛犬：てん子

ご意見、お便り、ありがとうございました

- 1) 浜坂病院(1)時間外診療でも満足のいく診察を受けられた。(TKさん)
- 2) 浜坂病院(2)昨年来、若い先生に納得のいく診察と処置が受けられ安心できるようになった。(HYさん)
- 3) 文書で懸案事項を町民に報告し、啓発すること及び「住民の幸せ追求が町政のつとめ」の通信副題に感銘する。(KOさん)

「柄の実通信」は年4回の発行を予定していますが、毎回の全戸的配布は困難なため、配布希望していただける方は当方まで、ご住所とお名前をお知らせください。ご意見等もお待ちしております。

柄の実通信

(ただっちゃん つうしん)

河越ただし

住民の幸せ追求が町政のつとめ

発行：河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL0796-92-2428 FAX92-2206

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp

http://take2428.bizmw.com/

新春



平成31年元旦(撮影) 三尾の大島

【新たな一年に向けて】

皆様、天候に恵まれた正月を過ごされたことと存じます。

昨年まで、現政権下で、景気は回復が続いていると、報道されてきましたが、私たちの町の財政状況は厳しいままです。

更に、私たちの町の若者の流出傾向はくい止められず、町内の年間出生者数は70人程度にまで減少しました。この数は団塊世代の概ね10分の1に匹敵し、町は危機的な状況です。

日本の人口減少化は地方を衰退させてきたことに大きな原因があるとの考え方に異論は少ないと思いますが、地方創生

政策は、不十分なままです。

その中で、自主財源の少ない私たちの町は、国の制度のもとでしか行政運営ができません。

国の政策をいかに上手に活用できるかが鍵になります。

その状況下で、新町政が誕生し、1年超を経過しましたが、少子化・若者定住・移住受入対策は進展させられませんでした。

また、様々な要因から0才・1才児保育の充実を含む浜坂認定こども園の移転等整備も進められませんでした。

しかし、浜坂病院の医療体制は昨年来、若手医師が加わったことで、救急患者への対応がほ

ぼ可能になったこと及び病床の一部を地域包括ケア病床に切替えたことで、病床稼働率は80%に近づき、経営改善が進んでいることは、私たちの町にとって大きな前進でした。

今年度は浜坂病院の更なる充実と生活環境の改善を基本とするまちづくりに向けて、皆さまの声を聞き取れる感性を磨きたいと思います。



経営改善が進む浜坂病院

「ふるさと納税制度の更なる活用促進を」(一般質問)

総務省が「ふるさと納税制度」を創設した目的は次のように説明されています。(総務省ホームページより)

- ・ 第一に、納税者が寄附先を選択する制度であり、選択するからこそ、その使われ方を考えるきっかけとなる制度であること。それは、税に対する意識が高まり、納税の大切さを自分ごととしてとらえ貴重な機会になります。
- ・ 第二に、生まれ故郷はもちろん、お世話になった地域に、これから応援したい地域へも力になれる制度であること。それは、人を育て、自然を守る、地方の環境を育む支援になります。
- ・ 第三に、自治体が国民に取組をアピールすることでふるさと納税を呼びかけ、自治体間の競争が進むこと。それは、選んでもらうに相応しい、地域のあり方をあらためて考えるきっかけへとつながります。

さらに、納税者と自治体が、お互いの成長を高める新しい関係を築いていくこと。自治体は納税者の「志」に応えられる施策の向上を。一方で、納税者は地方行政への関心と参加意識を高める。いわば、自治体と納税者の両者が共に高め合う関係です。

上記のように、総務省は自治体の工夫により自由に使える財源(お金)が得られる制度として「ふるさと納税制度」を創設しました。

私の今までの提案は、我が町の様々な地域づくり活動(集落、団体、グループなど)に「ふるさと納税」により、直接支援できる受け皿を創ることでした。

そのことで、目に見える各活動を応援しようという思いや支援をお願いする意欲も増加することが期待されます。

それは、各活動を盛り上げることに繋がり、ひいては我が町を盛り上げることに繋がると確信します。集落出身者との繋がりや我が町を離れた同級生との繋がりも再構築されるでしょう。

行政が直接関わり難いこと

や急な対応が求められることにも対応できる財布が構築できるのではないかと考えています。

我が町の現在の寄付金使途事業は4区分しかなく、寄付の目的意識を高めることはできないと思います。



今年の元旦も賑わった湯村温泉「荒湯」付近

今回の12月議会では、「お金のために、ふるさと納税制度に取り組みたくない」との町長の9月議会での答弁の真意を問いましたが、結局、同様の答弁に終始されました。

しかし、我が町の現状において、自主財源を得る(増やす)ことは、非常に困難です。町の独自施策を進めるためには、自主財源が得られる方策を追求する姿勢が必要です。

現在の自動ブレーキを利かせたような「ふるさと納税制度」の活用姿勢では、協力事業者のお礼品の出品や工夫の意欲を盛り上げることに繋がらないと思います。

先に記した我が町の近年の出生者数が我が町自体の危機的状況を明確に示しており、この状況下で、町長は、この町を住み良くするための「財源」確保に「協力して!」を明確に発信すべきだと思います。

これは、結果として町民一人ひとりの幸せに繋がります。



正月元旦、人(ひと)気が少なかったJR浜坂駅前 (町の顔)浜坂駅前整備を

平成31年度から兵庫県が主体となる都市計画道路浜坂駅港湾線整備事業(計画延長L=400m)が着手される予定です。

その工事により道路南側の米田茶店さんを始めとする家屋は移転し、ほぼ閑散とした景観になることが想定されます。



しかし、我が町の顔となるべき浜坂駅前の新たなまちづくり計画は白紙のまま、浜坂駅の利用客も減少の一途をたどっている状況です。

そのため、民間事業者任せでは、浜坂駅前のまちづくりの進展は期待できないと思います。

町の顔を整えるべきとの私の一般質問に対して、町長から住民との合意形成から始めるとの

答弁を得ました。

しかし、行政が様々な国や県の支援制度やまちづくりの手法を勉強・研究し、地域の方々に提案し、更に研究を進める方法でなければ、選択肢を広げることにはできないと思います。

自主財源を押えて、投資効果が得られる整備が求められます。私は駅前の定住人口を増やす高度利用型の居住施設設置を提案しました。

これは、町内の若者の定住対策としての一時的住居、町外からの移住者の一時的・定住的住居、高齢者の安心生活のための住居、浜坂高校の維持・発展のための寮等、複合的かつ一定規模の再開発事業としての取り組みが必要になります。

この分野の専門職員のいない我が町にとっては、事前の勉強・見習いが重要です。町の顔を整備しなければ、町の「気」は上昇しないと思います。

湯村温泉、七釜温泉についても、住宅等の老朽化が見られ、次への個々の投資が困難な状況が想定されることから、新たな需要を調査した上で、国の支援制度にかなう居住施設整備を要したまちづくりが有効ではないかと考えています。

まずは、自主財源確保、事業主体となる組織・団体づくり、常に研究し続けることも準備として必要だと思えます。

どうなる? 巨大風力発電プロジェクト



<喜しと環境維持は?>

昨年3月に外国籍の投資会社が設立した僅か資本金10万円の会社による事業説明会が開催されました。

我が町は、自然環境悪化、人体への悪影響、20年後の事業廃止に伴う施設放置への懸念等により、事業に反対する立ち場で臨んできましたが、現在の法律での完全規制はできないようです。

そのため、事業予定者は一定の指摘に対応して、着々と準備を進めていることが伝えられてきています。

事業阻止の方法は土地の利用権を譲渡しないことですが、そのことを土地の所有者に強要することは、難しい面があります。